

「幼保小の架け橋プログラム」では、相互の教育の内容や方法に関する理解の共有・深化が求められています。

学校の夏休み期間を利用して、保育園やこども園の保育を参観・体験することで理解を共有・深化する取組が各地区で行われましたので、ご紹介します。

授業参観も、保育参観も、学校と園の双方の協力があってできる連携の形だと感じました。

九沢小学校区の幼保小連携 ～ 保育体験 ～

九沢小学校区では、1学期には、学校の授業参観や協議会を行い、7月21日(金)、24日(月)には、小学校の先生が連携園を訪問し、保育参観・保育体験を行いました。

幼児期は、遊びを中心として、頭も心も体も動かして、主体的に様々な対象と直接関わりながら、総合的に学んでいきます。諸感覚を使って、友達と協力して、言葉を交わして共有して、様々なことを学んでいます。

小学校の先生が園児と一緒に遊んだり、5歳児だけでなく、乳幼児からの発達段階についての説明があったりすることで、子どもの育ちの連続性や学びのつながり、子どもへの関わりや環境構成について考えました。

【おくどり風の丘こども園】



～園の先生が乳幼児期からの育ちについて説明～



～お誕生会 お誕生日の子の良い所を伝え合います～

【大沢保育園】



～小学校の先生も一緒に水遊び～
諸感覚を使って遊びます

【認定こども園きらきら】



～水を協力して集めたり、泥にして感覚の違いを楽しんだり～

【小さき花保育園】



～ブロックで何を作ろうかな～

R5 九沢小学校幼保小連携事業

月	事業名
6月	幼保小連携教育推進会議① 幼保小連携研修
7月	保育体験・情報共有
11月	幼保小連携教育推進会議②
11月	なかよし集会 (1年生と園児の交流会)
11月～3月	保育参観・情報共有
2月	幼保小連携教育推進会議③
随時	園児の校庭遊び授業参観等

【小学校の先生の感想より】

- ・園でも、遊びの中で、数に親しんでいるのだと分かりました。
- ・グループごとの色分けや写真するなど、掲示物の工夫がありました。
- ・園の先生方も「自分で考えさせる」ことを意識した言葉かけをしていました。
- ・どちらがいい？など、選択できる工夫がたくさんあり、そこから自分で選んで遊ぶことができるのだと思いました。学習の中でも選べる工夫、自分で決める工夫を取り入れたいと思いました。

子どもたちとふれ合い、園の環境を見ることで、活用できる気付きがたくさんありました。

